

会議録

会議の名称	令和7年度第1回 西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和7年7月18日（火）午後2時から午後3時50分まで
開催場所	第1・第2委員会室（田無庁舎4階）
出席者	<p>【委員】 山谷委員、木村委員、植村委員、福田委員、小早川委員、平山委員、澤野委員、海老沢委員、恒成委員、衣川委員、福山委員、安部委員、田中委員、豊川委員</p> <p>【欠席】 渡部委員</p> <p>【事務局】 白井みどり環境部長、西川資源循環推進課長、本多清掃係長、船場資源循環推進係長、山岡資源循環推進係主査、岩崎資源循環推進係主任</p>
議題	<p>(1) 会長・副会長の選出</p> <p>(2) 審議会の運営方法について</p> <p>(3) 西東京市の廃棄物処理の状況</p> <p>(4) 今後のスケジュール</p> <p>(5) その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市廃棄物減量等推進審議会委員名簿</p> <p>資料2 廃棄物の処理及び清掃に関する法律（抜粋）</p> <p>資料3 西東京市廃棄物の処理及び再利用に関する条例</p> <p>資料4 西東京市廃棄物の処理及び再利用に関する条例施行規則</p> <p>資料5 西東京市市民参加条例</p> <p>資料6 西東京市市民参加条例施行規則</p> <p>資料7 西東京市廃棄物減量等推進審議会傍聴要領</p> <p>資料8 西東京市の廃棄物処理の状況</p> <p>資料9 令和7年度 西東京市廃棄物減量等推進審議会のスケジュール</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>（発言内容等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市長から各委員へ委嘱状の交付 2 市長から委員に挨拶 3 市長公務のため退席 4 各委員の自己紹介 5 事務局職員の紹介 6 議題(1)について、推薦の後、互選により山谷委員が会長に就任、会長から就任の挨拶 7 推薦の後、互選により木村委員が副会長に就任、副会長から就任の挨拶 8 議題(2)について、事務局から審議会の運営方法について資料を基に説明し、審議会の運営について次のとおり会長が決定 <ul style="list-style-type: none"> ・会議録の記述内容は、会議内容の要点記録とする。 ・傍聴人の定数を5人以内とする。 	

(委員からの主な意見等)

会 長：それでは引き続きの議題に入ります。なお、本日の出席状況ですが、渡部委員から欠席の連絡が入っています。また、本日の傍聴人については、ありません。

議題(3) 西東京市の廃棄物処理の状況（速報値）

～ 事務局より資料8 西東京市の廃棄物処理の状況についての説明 ～

会 長：説明ありがとうございました。それではまず私からの質問ですが、資源物でインクの回収がありますが、他の自治体ではあまり見たことがないです。同様にあまり見られない廃食用油の戸別収集に併せて回収することでスタートした、などの経緯があったりするのでしょうか。

事務局：廃食用油は業者が買い取りで週に1度回収し、インクの材料にするなどしています。その他インクカートリッジの回収方法は市内に9か所設置してある「里帰りプロジェクト」の回収BOXによる拠点回収になります。廃食用油の回収とは、関係ないです。

会 長：インクというのは、万年筆やペンキ等も含むのでしょうか。

事務局：プリンターのインクカートリッジになります。

会 長：拠点回収であれば、他自治体でも同様の取り組みをやっています。西東京市でも、市民の方にご協力いただいているということのようです。

西東京市のごみ減量に至る実績は、環境省がとりまとめるリデュース実績のトップ10の常連です。10万人以上50万人未満のカテゴリーで年々順位が上がって最新では4位になります。

事務局：インクの「里帰りプロジェクト」について補足します。エコプラザ、田無庁舎、公民館等の市内9か所の公共施設に先述のインクカートリッジを回収するBOXを設置しています。単にごみとして処分するのではなく、リサイクルする道として少しでもごみを減らすべく環境省と連携して行っている事業です。

委 員：家庭ごみの中で、粗大ごみが増加していると見受けられますが、その要因は何でしょうか。

事務局：その時々々の社会情勢によって粗大ごみの量や種類の傾向が異なり、それを分析するのは難しい。令和6年度については、家具の中でも棚のような重量の大きなものが増えました。市としては使えるものはリユースを推進し、粗大ごみの減少につなげるよう取り組んでいます。

会 長：高齢化が進んでいることが影響している可能性もあると思います。通常、高齢化が進むと排出支援の件数は増えると考えられるが、施設入所する方が増えていたり、お亡くなりになったりで、逆に件数が減少している自治体もあると聞きます。団地も空き部屋が増えているなど、粗大ごみの増加にも影響しているかのしれません。それらのごみのリサイクルをいかに推進していくかが課題ではないのでしょうか。西東京市にはリサイクル展示コーナーがあるので、ホームページなどの広報で市民によ

り周知し、活用することでリユースに繋がればと思います。

副会長：一部の世帯限定で行っている、生ごみの戸別収集の数字は資料のデータに入っていますか。

事務局：資源物の項目の中の「生ごみ」が、その数字になります。

副会長：現在の実施数から増やせばいいのに、と思います。自分も応募したが、ハズレてしまいました。やむを得ないので、空き箱に庭の土を入れてコンポストを作って処理しています。スイカの皮のように重量もあってほとんどが水分の生ごみを可燃ごみとして施設で燃やすとなると、強い火力が必要となりとても無駄なので、生ごみを可燃ごみとは別に回収し処理できればいいのでは、と考えます。コンポストでは、重量がある生ごみを使って、2年間でどのくらい可燃ごみを減らせるか試しています。

会 長：コンポストである「キエーロ」にスイカの皮を入れると、みかんの皮もそうですが、分解するまでかなりの時間がかかります。残飯であれば1週間から10日間で消えますが、調理加工していないものは、中々消えません。分解までの期間を短縮するには、ごみを切り刻んだり、中の土を攪拌したりして、バクテリアと多く接するようにする必要があります。

先日他の自治体を訪れた際に、自治体は「キエーロ」について比較的簡単にできるとPRをしますが、実際はそこまで容易ではない、との話をさせていただきました。

ダンボールコンポストもあわせて使用していましたが、こちらは基材を入れているので分解も早いですが、「キエーロ」はただの土を使用するなので、限界があります。

アメリカでは自治体がコンポストの購入支援を積極的にしています。現地ではミミズを使用するのが一般的で、分解するのには一番いい土ができます。ただ、日本人は虫が苦手なので普及しづらく、そこは国民性の違いでしょうか。

副会長：「キエーロ」について、新しい委員の方のためにもう少し詳しくご説明をお願いします。

会 長：「キエーロ」は黒土を使用しますが、庭の黒土でもいい。一番手がかからないのは、庭に直接埋めることです。庭の無い人にも箱に入れてできるという発想でできたのが「キエーロ」です。各自治体で勧めています。例えば葉山町では、「キエーロ」以外にも色々な堆肥化容器が役場のロビーに並べてあり、それを市民の方が購入することができます。

普及については、土地柄もあるかとは思いますが、購入や申請など補助手続きのハードルを下げることは重要です。

鎌倉市長も自宅に「キエーロ」を複数設置し、近所の人にも使ってもらうなど、導入、普及に熱心です。西東京市でも坂口元市長が自宅でコンポスターを設置するなど、ごみ減量に精力的でした。このような動きに、市民の方も付いて行ってほしいです。

委 員：生ごみの戸別回収ではどのように回収しているのでしょうか。乾燥させて集めているのでしょうか。また、回収後はそれを買取る業者があるのでしょうか。その後どのように使われてるのでしょうか。

資源物については、レアメタルなどに代表されるように、資源の争奪戦が繰り広げられる中、生ごみについてもそのようなことになっていくのが気になります。

事務局：回収は五美清掃がしております。専用のバケツをお貸しして、そこに生ごみを出していただきます。収集後、武蔵村山市にある比留間運送に運び、同社で処理をし、堆肥化をしています。買い取りではなく、処理費を支払っております。出来上がった堆肥と軽石を混ぜて肥料化し、実際に花壇などで使用しています。

委員：当社にて週2回収集し、比留間運送に運びます。そこで専用の器具を用いて、軽石、木くずなどを混ぜ、土壌改良剤を製造し、販売をしています。

また生ごみの回収世帯はどのように決定されるのか、また、件数は今後増やすのか、現状維持で行くのか、確認させていただきたいです。

事務局：300世帯が上限で、辞退や引っ越しなどである程度空きが出た段階で募集をかけます。応募者の中から抽選という形になります。生ごみリサイクルは人気もあり、可燃ごみの減量にも寄与することから有効な事業であります。当該事業の一番の目的は、生ごみ減量や資源化に向けての普及啓発です。今後全戸に拡大していくかどうかは、現実的に難しいと考えます。また比留間運送で製造した土壌改良材については、その一部を譲り受け、学校に配布し、食品ロスや資源化について出前講座という形で啓発しております。

副会長：今回、新たに任期がスタートしましたが、年に4回しかない会議なので、なるべく各委員が意見を出し、それを共有できる場にしていければと思います。

会長：それでは後の議題の「その他」で、意見を出していただきます。

議題(4) 今後のスケジュール

～ 事務局より資料9 令和7年度 西東京市廃棄物減量等推進審議会のスケジュールについての説明 ～

事務局：来年の令和8年度は、一般廃棄物処理基本計画の改定について議論していただく必要があるため、今年度はその事前の段階として皆様に西東京市のごみについての状況把握や情報共有をしていただきたいと思います。また、視察については、例えば先ほど話に出ました生ごみのたい肥化の比留間運送など、皆様の意見も聞きながら今年度も行いたいと考えております。

議題(5) その他

会長：先ほど話にも出ましたが、ご意見のある委員の方がいらっしゃればお願いいたします。

副会長：せっかくなので、新しい委員の方どうでしょうか。

委員：先ほどもありましたが、インクカートリッジや生ごみの回収についてどのように行ったらいいのか。学校でごみに対する取り組みをもっと知ってもらうことはできな

いか、と思います。娘の通う小学校では、インクカートリッジ、歯ブラシの回収をクラス単位で集計し、1位のクラスはその月の給食のメニューを選べるようにする、などの特典をつけるなどで、環境について興味を持たせるようなことをやっています。

生ごみの回収については、300世帯では中々当たらなさそうだなと思いました。例えば学校単位でコンポストなどを置いて、家から持ってきた生ごみを入れ、それが土に帰り肥料になることを子どもたちの学習に含めていくなど、数字にまでは出ないかもしれませんが、生ごみの減少にも寄与できるのではないかと、思いました。また、セブンイレブンのペットボトル回収機はよく使用しています。娘もポイントがたまると喜んでいましたし、このように、こどもに伝わるような施策をどんどんやってほしいと思います。

処理状況について、市報等で自分も拝見はしていましたが、市としての目標値はあるのでしょうか。排出量の減少も大事ですが、最終処分場に運ぶ量を減らすことも必要と考えます。そのような目標はあるのでしょうか。また先の委員の方の意見もありましたが、基板等の資源物の回収で、その歳入についてはごみの減量の費用に充てるような循環があればと思います。資料では古紙の処理量が減っているが、ごみが減る一方で、歳入も減ることになるが、そのことの善し悪しがる指標はあるのでしょうか。どのように考えていくのか、聞きたいです。

事務局：西東京市一般廃棄物処理基本計画に目標値があり、令和18年度までの目標があります。可燃ごみでは家庭ごみ＋持ち込みごみの年間回収量31,421 tとなっており、これは1人あたり約330 g/日であり、現段階で334.3 g/日なので、目標値まであと約4 gとなっております。このことについて今後どのような施策をしていくか、ということであります。

会 長：令和18年度までの目標ということを見ると、順調に減ってるようですね。

委 員：1人1日あたりの排出量の話はピンとくるが、全体的な大きい話でごみの排出量が全国で4番目に少ないということですが、意外と想像しづらいと思いました。逆にコンポストの話なんかは身近で興味もあるが、実際にやってるかという、やれていない。ネットとかで調べると、意外に不安要素も多くて、二の足を踏んでしまう人も多いのではないのでしょうか。こういうことに対するレクチャーをしてくれたら、一歩が踏み出せるのではないかと思います。

他ではペットボトルのキャップについてはなぜ別途回収していないのかなど、日常のごみについての疑問についてもこの場で投げかけてみれたら、と思います。

委 員：リチウムイオン電池が売れるということで驚いています。5月に当社の収集車が、東村山市の古紙を収集している際に、火災に遭いました。ライターの混入が原因でしたが、真っ先に思いついたのはリチウムイオン電池でした。リチウムイオン電池の廃棄方法を、みなさんがどのくらいご存じなのでしょう。それが伝わっていないと、他のごみに混ぜて排出して、火災が起こるのもある意味仕方ないとも思います。収集車は新車で買えば1千万円、今回保険でおりたのが250万円でした。危険なものの排出方法については、市報やエコ羅針盤などの広報によって周知徹底をお願いしたいです。

会 長：分別回収の区分の見直しは、多摩地域では進んでいると思います。西東京市では蓄電池を小型家電の回収と、拠点回収でも扱っていますが、他自治体では有害・危険物に分類を変更し、あわせて回収しているところもあります。そのようなところも

参考にする必要があるかもしれません。また、量販店と協力した回収もしているが、あまり進んでおらず、行政が積極的に関わっていないと事故は防げないと思います。

事務局：リチウムイオン電池については、その処理について行政で対応するよう国から方針が示されています。西東京市では現状の小型家電としての収集、エコプラザと田無庁舎での拠点回収についての周知を引き続き行い、市民の方に正しい廃棄方法の理解をしていただくことが重要と考えます。膨張しているものは、直接エコプラザにお持ち込みいただければ回収しますので、このことも含めて周知をしていきます。

会 長：以前は電池を不燃ごみとして回収していた経緯もあり、その流れで不燃ごみに混ぜて排出したり、そもそもリチウムイオン電池が使われていることを知らずにそのまま出してしまうケースもあるのではないのでしょうか。プラスチックのおもちやに使われてる場合は、プラスチック容器包装類に混入されることもありえます。最近では廉価なハンディファンをはじめとして、あらゆるものに使われてる印象があります。

事務局：柳泉園組合でも、先日リチウムイオン電池による火災がありました。この件はホームページでも周知し、リチウムイオン電池が様々なものに使われており、火災の危険性があることの注意喚起をしました。小型家電の収集日には市内各所からリチウムイオン電池を使用したものが集まってきて、柳泉園に搬入すべく分解の作業をしています。その中でも小型音楽プレイヤーなどにも爪の先ほどの小型電池が使われているなど、あらゆるところに使われています。膨張した電池についての問い合わせも増えており、周知の重要性を感じております。

会 長：誤った排出が、気づかないうちに他の市民、行政、収集業者に迷惑をかけることになります。難しい問題ですが、行政に頑張って取り組んでいただきたいと思います。

他に意見はありますか。今回も皆様より活発なご意見、行政の悩みなどを伺うことができました。時間となりましたので、本日の審議会はこれで終了いたします。